

薬理学		講義	教授 田中 基晴
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野科目	科目ナンバリング	13341401

1. 授業のねらい・概要

本科目は、救急救命士国家試験受験指定科目に設定されており、救急救命士として必要な薬理学の基礎知識の修得を学習目標としている。本講義では、薬物の体内動態、薬理作用、種々の薬物の臨床応用など薬理学全般について講義する。

2. 授業の進め方

救急救命士国家資格取得のための専門分野科目となるため、理解を深めるよう画像も使用した説明を行う。薬理学は生化学、生理学といった基礎医学の知識の上に成り立っている学問であり、必要に応じて基礎医学についても説明する。また、臨床医学にも関わっていることから、主な病態に関する病態メカニズムについても言及する。

3. 授業計画

1. 総論(1) 薬物とは何か、薬物と法律、薬理作用と作用機序 2. 総論(2) 薬物の反応に影響を与える因子(薬物側の因子、生体側の因子)、薬物動態(投与方法、吸収、分布、代謝、排泄) 3. 自律神経(自律神経系の基礎知識) 交感神経と副交感神経の構成とそれぞれの機能 4. 自律神経 コリン作動薬、コリン作動性効果遮断薬 アドレナリン作動薬、アドレナリン作動性効果遮断薬 5. 筋弛緩薬、局所麻酔薬 中枢神経系：全身麻酔薬、鎮静睡眠薬 6. 中枢神経 麻酔性鎮静薬、てんかんの病態と抗てんかん薬、パーキンソン病の病態と抗パーキンソン病薬 7. 中枢神経 統合失調症の病態と抗精神病薬、躁うつ病の病態と抗うつ薬、抗躁薬	8. 薬物依存 薬物依存の総論、覚せい剤、麻酔(オピオイド、コカイン、幻覚薬) 9. 薬物依存 大麻、タバコ、アルコール 10. 心・血管系 強心薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬、降圧薬 11. 血液系、腎臓作用系、呼吸器系 血管系：抗血栓治療薬抗(凝固薬、血小板機能阻害薬、血栓溶解薬)、止血剤 腎臓作用薬：利尿薬 呼吸器系：喘息治療薬、鎮咳薬 12. 抗感染症薬、抗がん薬 抗感染症薬：抗菌薬、抗ウイルス薬 13. 抗炎症 免疫系 14. 内分泌系：糖尿病治療薬、高脂血症治療薬 15. 消化器系 消化器系：潰瘍治療薬 毒物と解毒薬
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1) 予習（必要時間：約 50 分）

a) 次週の予習内容を伝える。下記のイ) -ロ) に示す2項目を学生に提示する。

イ) 学習概要

ロ) 受講するにあたり必要な専門用語の説明

2) 復習（必要時間：約 40 分）

a) 授業内容整理

各単元終了後に「まとめ」を提示して知識の確認を行うので、「まとめ」を十分理解、記憶するように復習する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 筆記試験

a) 正解は貼りだす。

b) 解説は、不正解問題を中心に行う。

6. 授業における学修の到達目標

救急救命士に必要な薬理学の基本的知識を身につけるとともに国家試験問題を解答・解説できるレベルへの到達を目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

1) 成績評価の基準

主に救急救命士に必要な薬理学の基本的知識の習得に関して、その到達度によって成績評価を行う。

2) 成績評価の方法

受講態度（出欠・遅刻・早退、など）（30 %）。（スマホ閲覧を禁止しています）

筆記試験（70 %）。

8. テキスト・参考文献

テキスト：改訂第 10 版救急救命士標準テキスト

テキスト：いちばんやさしい薬理学 木澤靖夫 成美堂出版 2020 年

9. 受講上の留意事項

事前に高校生物，生化学，解剖生理学の知識を復習しておくこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。製薬会社における新薬開発の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。